



桑の緑

小坂小学校 学校便り
令和3年9月3日
文責：校長 江上 知男



昼休みが終わったらマスク！

マスクの時代…「目」が大切です！

コロナ禍で大きく変わったことの1つに、「人前でマスクをすること」があります。私は、「マスク顔」が同じように見えて、人を見分けたり、名前を覚えたりするのに苦労しています。

「マスク顔」から得られる情報は、「目」やその周辺に限られ、それに声などの情報を加えて、相手の感情や考えを想像します。「目は口ほどにものを言う」と言いますが、目の使い方はコミュニケーションをとるうえで、これまで以上に重要です。

さて、毎朝校門に立って子どもたちとあいさつを交わしていますが、子どもたちの視線は様々です。「何となく私の方を見てあいさつをする子」が約4割、「私の方を向かず言葉だけ交わす子」が約2割、「目を合わせてあいさつする子」が約2割、「目を合わせたうえで会釈までする子」が約2割という感じです。目を合わせてくれる子どもとのあいさつは、一瞬気持ちを通じ合っ、気持ちが良いものです。

人によって違いがある理由は、性格(恥ずかしい…)や感情(関わりたくない、面倒…)が大きいと考えられます。また、相手への信頼度も関係します。ただ、「マスク顔で目を合わせない」となると、相手にマイナスの感情(無視した、自信なさそう…)を抱かせることも事実です。「相手の目を見て話すこと」は、学校でも家庭でも話題にして、一緒に考える必要があると思いますがいかがですか？

「記憶力が高まる」話です！

芦田愛菜さんという俳優をご存知ですか。「天才子役」として有名になりました。現在、高校2年生だと思います。今年のお盆の頃、テレビで「マルモのおきて」というドラマが再放送されていて、思わず見入ったのですが、そこに10年ほど前の彼女の姿がありました。当時小学校低学年でありながら、大人顔負けの感情表現ができる自然な演技を見て、改めて「すごい!」と思いました。ある共演者が、「愛菜ちゃんは、台本の漢字をスラスラ読めるのでビックリした」と話しているのを思い出しました。彼女は、幼少の頃から読書に興味を持ち、小学生の頃に読書量が年間60冊を超え、中学生になってからは年間300冊以上を継続的に読み続けているのだそうです。学業と仕事の両立で、プライベートな時間は少ないでしょうに…。



昼休みの読書

ある人は「読書の効果」について、「登場人物が感じていることを想像し、さらに、その気持ちをどうやって相手に伝えるのかを読むことで、自然と言葉の操り方を学び、コミュニケーション力を高めることが可能になる。読書は、他人の気持ちを想像する力を育て、人間的・精神的な成長に繋がる」と述べています。彼女の演技力や理解力の高さは、読書の効果なのかも知れません。

脳科学でも、「読書の効果」を説いています。人間の脳には、【情緒】や【創造力】をつかさどる「大脳の前頭葉」という場所があり、前頭葉は小学生期には鍛えれば鍛えるほど発達するのだそうです。また、小学生期は【無努力記憶期】ともいわれており、「記憶しなさい!」と前頭葉から出された命令を忠実に実行して、面白いほど知識が蓄積されるのだそうです。小学生の時期に覚えた「かけ算九九」や「基本的な漢字」などを一生忘れない理由も理解できます。そして、この時期の読書は前頭葉を一層刺激して、情操が豊かになるばかりか「記憶容量が増大する特効薬」なのだそうです。

実は…、私はこの夏「ある資格試験」を受験したのですが、何ヶ月も前から準備のために本を読んでも読んでなかなか頭に入らず、「記憶容量の不足」を痛感しました。年齢から来るものなのか、子どもの頃からの読書が足りなかったのか、今となっては知る由もありません…残念!(涙)。